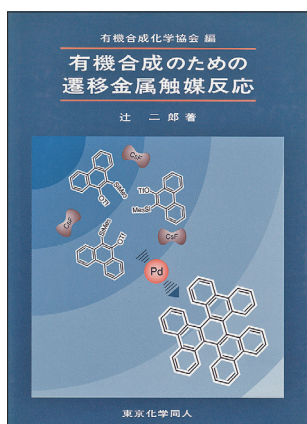


## ■若手に読んでもらいたい本

井原栄治のおすすめ  
愛媛大学大学院理工学研究科 教授

分野：有機合成化学、有機金属化学  
書籍名：有機合成のための遷移金属触媒反応  
著者名：辻 二郎  
出版社：東京化学同人  
出版年：2008年  
価格：2,900円（税別）

“高分子合成化学を一通り勉強し、この分野において遷移金属触媒が果たしてきた大きな役割を知った。そして、オレフィン類の立体特異性重合や開環メタセシス重合等、代表的な遷移金属触媒重合について詳しく学んだ。さらに、遷移金属触媒の示す多種多様な反応性を自身の高分子合成研究に活かすため、必要とされる遷移金属触媒反応についての一般的な知識を身に付けたいと考えている。”このような状況にある若手研究者に薦めたい本である。

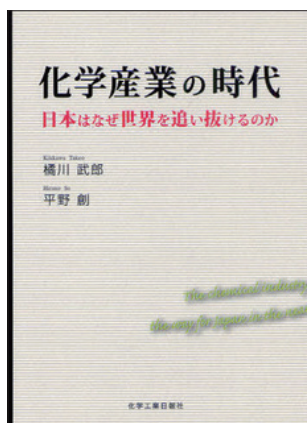
遷移金属触媒反応に関して、長年多くの研究者により蓄積された金属元素別、反応タイプ別の各論データは膨大であり、それらを網羅した成書から、高分子合成研究に応用するために必要な一般論を効率良く学ぶのは容易ではない。この分野での世界的な権威である著者により、遷移金属触媒反応のエッセンスが見事にまとめられたこの本が、その目的のために適していると思う（もちろん、本書の本来の目的は“有機合成

のための”であるが)。厳選された重要かつ代表的な反応について、その反応機構の本質を理解させるための丁寧な説明が実に素晴らしい。参考文献が書籍と総説のみに絞られているのも、初学者には都合が良い。

必要な箇所のみを読むのではなく、隅から隅まで何度も精読することを勧めたい。全体の分量（B5版約150ページ）もそれに適している。本書の内容すべてを理解するのは決して容易ではないが、得られるものは大きいと感じさせてくれる一冊である。



## ■私の役に立った本

辻 早希子のおすすめ  
(株)三菱総合研究所 経営コンサルティング本部

分野：ビジネス  
書籍名：化学産業の時代—日本はなぜ世界を追い抜けるのか  
著者名：橋川 武郎・平野 創  
出版社：化学工業日報社  
出版年：2011年  
価格：1,890円

私は学生時代に高分子微粒子の研究に従事した後、コンサルティング業界へ進み道を選択しました。今は「素材」をキーワードにさまざまなビジネスを支援する立場で日々奮闘していますが、こうした仕事をするうえで、それぞれの企業の強みや経営環境について理解する工程は欠かせません。そこで、日本の化学産業を理解するのに役立つ良書を紹介したいと思います。

日本の素材産業は強いと言われていません。たとえば、液晶ディスプレイ用偏光板保護フィルム、化合物半導体、炭素繊維、リチウムイオン電池用正負極材、シリコンウエハーなどの機能性化学部材に関する日本メーカーの世界シェアは、自動車、電子機器、電池などの最終製品よりはるかに高いことをご存知でしょうか。

この本は、日本の化学メーカーの収益分析から、長期間にわたって高い成長を遂げている高収益企業とそれ以外の企業を分類し、各企業の歴史や強み、事業戦略につい

て分析しています。読み進めると、日本の主要な化学メーカーの事業分野、戦略の違い、業績の状況、競争力を獲得・維持してきた経緯について、理解を深めることができます。

みなさんの研究対象である高分子をいつか社会に貢献する材料として世に送り出すためには、研究テーマや研究の方向性を検討する際に、将来どのようなビジネスとして成立させるかという視点も交えて考えることも必要だと思います。そんなとき、この本を手にとってほしいと思います。

